

森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱

制定 平成 25 年 5 月 16 日 25 林整森第 60 号
農林水産事務次官依命通知
最終改正 平成 26 年 4 月 1 日 25 林整森第 272 号

(通則)

第 1 森林・山村多面的機能発揮対策交付金（以下「交付金」という。）の交付については、森林・山村多面的機能発揮対策実施要綱（平成 25 年 5 月 16 日 25 林整森第 59 号農林水産事務次官依命通知。以下「実施要綱」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和 30 年政令第 255 号。以下「適正化法施行令」という。）、農林畜水産業関係補助金等交付規則（昭和 31 年農林省令第 18 号。以下「交付規則」という。）及び予算科目に係る補助金等の交付に関する事務について平成 12 年度予算に係る補助金等の交付に関するものから沖縄総合事務局長に委任した件（平成 12 年 6 月 23 日農林水産省告示第 900 号）の定めによるほか、この要綱の定めるところによる。

(交付の目的)

第 2 交付金は、地域住民が森林所有者等と協力して実施する里山林をはじめとする森林の保全管理や山村地域の活性化に資する取組の促進を目的とする。

(交付事業者)

第 3 交付金の交付事業者は、実施要綱第 3 の 2 に定める地域協議会及び都道府県とする。

(交付の対象及び交付率)

第 4 農林水産大臣（以下「大臣」という。）は、交付事業者が下記に掲げる交付金を充てて行う事業（以下「交付事業」という。）を実施するために必要な経費のうち、交付金交付の対象として大臣が認める経費（以下「交付対象経費」という。）について、予算の範囲内で交付金を交付する。

- (1) 森林・山村多面的機能発揮対策交付金
- (2) 森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金

2 交付対象経費の区分及びこれに対する交付率は、別表に定めるところによる。

(流用の禁止)

第 5 別表の区分の欄に掲げる 1 及び 2 の事業に係る経費の相互間における経費の流用をしてはならない。

(申請手続)

第6 交付事業者は、交付金の交付を受けようとするときは、適正化法第5条、適正化法施行令第3条及び交付規則第2条の規定に基づき、別記様式第1号による交付申請書正副2部を大臣等（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあっては内閣府沖縄総合事務局長をいう。以下同じ。）に提出しなければならない。

2 交付事業者は、前項の申請書を提出するに当たって、当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額（交付対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額との合計額に交付率を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）があり、かつ、その金額が明らかな場合には、これを減額して申請しなければならない。ただし、申請時において当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない事業実施主体に係る部分については、この限りでない。

(交付申請書の提出期限)

第7 交付規則第2条の規定による申請書の提出期限は、林野庁長官が別に通知する日までとする。

(交付決定の通知)

第8 大臣等は、第6第1項の規定による申請書の提出があったときは、審査のうえ、交付金を交付すべきものと認めるときは速やかに交付決定を行い、交付事業者に交付金交付決定の通知を行うものとする。

(申請の取下げ)

第9 交付事業者は、適正化法第9条第1項、交付規則第4条の規定により申請を取り下げようとするときは、交付決定の通知を受けた日から15日以内にその旨を記載した書面を大臣等に提出しなければならない。

(計画変更、中止又は廃止の承認)

第10 交付事業者は、次の各号のいずれかに該当するときは、交付規則第3条第1号の規定に基づき、別記様式第2号による変更等承認申請書正副2部を大臣等に提出し、その承認を受けなければならない。

(1) 交付対象経費の区分ごとの配分された額を変更しようとするとき。ただし、第11に定める軽微な変更を除く。

(2) 交付事業の内容を変更しようとするとき。ただし、第11に定める軽微な変更を除く。

(3) 交付事業を中止し、又は廃止しようとするとき。

2 大臣等は、前項の承認をする場合において必要に応じ交付決定の内容を変更し、又は条件を付することがある。

(軽微な変更)

第 11 交付規則第 3 条第 1 号イ及びロに規定する大臣が定める軽微な変更は、別表に定めるところによる。

(事業遅延の届出)

第 12 交付事業者は、交付事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合、又は交付事業の遂行が困難となった場合においては、交付規則第 3 条第 2 号の規定に基づき、交付事業が予定の期間内に完了しない理由又は交付事業の遂行が困難となった理由及び交付事業の遂行状況を記載した書類正副 2 部を大臣等に提出し、その指示を受けなければならない。

(状況報告)

第 13 適正化法第 12 条の規定に基づく交付事業の遂行状況報告は、交付金の交付決定に係る年度の 12 月 31 日現在において、別記様式第 3 号により事業遂行状況報告書正副 2 部を作成し、当該年度の 1 月 31 日までに大臣等に提出しなければならない。ただし、林野庁長官が別に定める概算払請求書をもってこれに代えることができるものとする。

2 大臣等は、前項に定める時期のほか、事業の円滑な執行を図るため必要があると認めるときは、交付事業者に対して当該交付事業の遂行状況報告を求めることができる。

(実績報告)

第 14 交付事業者は、交付事業を完了したときは、交付規則第 6 条第 1 項の規定に基づき、その日から、1 ヶ月を経過した日又は翌年度の 4 月 10 日のいずれか早い日（都道府県に対し交付金の全額が前金払又は概算払により交付された場合は、翌年度の 6 月 10 日）までに、別記様式第 4 号による実績報告書正副 2 部を大臣等に提出しなければならない。

2 第 6 条第 2 項のただし書により交付の申請をした交付事業者は、前項の報告書を提出するに当たって、当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかになった場合は、これを交付金額から減額して報告しなければならない。

3 第 6 条第 2 項のただし書により交付の申請をした交付事業者は、第 1 項の報告書を提出した後において、消費税及び地方消費税の申告により当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額が確定した場合には、その金額（前項の規定により減額した交付事業者については、その金額が減じた額を上回る部分の金額）を別記様式第 5 号による消費税相当額報告書にて速やかに大臣等に報告するとともに、大臣等の返還命令を受けてこれを返還しなければならない。

また、当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかにならない場合又ははない場合であっても、その状況等について、第 15 条第 1 項の確定のあった日の翌

年6月30日までに、同様式により大臣等に報告しなければならない。

(交付金の額の確定等)

- 第15 大臣等は、第14第1項の規定による報告を受けた場合には、報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る交付事業の実施結果が交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付金の額を確定し、交付事業者へ通知する。
- 2 大臣等は、交付事業者へ交付すべき交付金の額を確定した場合において、既にその額を超える交付金が交付されているときは、その超える部分の交付金の返還を命ずる。
- 3 前項の交付金の返還期限は、当該命令のなされた日から20日（都道府県が当該交付金の返還のための予算措置について議会の承認を必要とする場合で、かつ、この期限により難しい場合は90日）以内とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(交付決定の取消等)

- 第16 大臣等は、第10の交付事業の中止又は廃止の申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当するときは、第8の交付の決定の全部又は一部を取り消し、又は変更することができる。
- (1) 交付事業者が、法令、本要綱又は法令若しくは本要綱に基づく大臣等の処分若しくは指示に違反した場合
- (2) 交付事業者が、交付金を本事業以外の用途に使用した場合
- (3) 交付事業者が、交付事業に関して、不正、事務手続の遅延、その他不適当な行為をした場合
- (4) 交付の決定後生じた事情の変更等により、交付事業の全部又は一部を継続する必要がなくなった場合
- 2 大臣等は、前項の取消しをした場合において、既に当該取消しに係る部分に対する交付金が交付されているときは、期限を付して当該交付金の全部又は一部の返還を命ずるものとする。
- 3 大臣等は、第1項(1)から(3)の取消しをした場合において、前項の返還を命ずるときは、その命令に係る交付金の受領の日から納付の日までの期間に応じて、年利10.95パーセントの割合で計算した加算金の納付を併せて命ずるものとする。
- 4 第2項に基づく交付金の返還及び前項の加算金の納付については、第15第3項の規定を準用する。

(財産の管理等)

- 第17 交付事業者は、交付対象経費（交付事業を他の団体に実施させた場合における対応経費を含む。）により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」

- という。)については、交付事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、交付金交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 2 取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると見込まれるときは、その収入の全部又は一部を国に納付させることがある。

(財産の処分の制限)

- 第 18 取得財産等のうち適正化法施行令第 13 条第 4 号の規定により、大臣が定める機械及び重要な器具は 1 件当たりの取得価格又は効用の増加価格が 50 万円以上の機械及び器具とする。
- 2 適正化法第 22 条に定める財産の処分を制限する期間は、交付金交付の目的及び減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和 40 年大蔵省令第 15 号)を勘案して、交付規則第 5 条により定める処分制限期間(以下単に「処分制限期間」という。)とする。
 - 3 交付事業者は、処分制限期間中において、処分を制限された取得財産等を処分しようとするときは、あらかじめ大臣等の承認を受けなければならない。
 - 4 第 17 第 2 項の規定は、前項の承認をする場合において準用する。

(交付金の経理)

- 第 19 交付事業者は、交付事業についての帳簿を備え、他の経理と区分して交付事業の収入及び支出を記載し、交付金の使途を明らかにしておかなければならない。
- 2 交付事業者は、前項の収入及び支出について、交付規則第 3 条第 4 号に基づき、その支出内容の証拠書類又は証拠物を整備して前項の帳簿とともに交付事業の完了の日の属する年度の翌年度から起算して 5 年間整備保管しなければならない。
 - 3 交付事業者は、取得財産等においては、前項の規定にかかわらず、当該取得財産等の処分制限期間中、前項に規定する帳簿等に加え別記様式第 6 号の財産管理台帳その他関係書類を整備保管しなければならない。

(交付金調書の作成)

- 第 20 都道府県は、当該交付事業に係る歳入歳出の予算書並びに決算書における計上科目及び科目別計上金額を明らかにする別記様式第 7 号による交付金調書を作成しておかなければならない。

(間接交付金交付の際付すべき条件)

- 第 21 交付事業者は間接交付事業者に交付金を交付するときは、本要綱の規定に準ずる条件を付さなければならない。

附 則 (平成 25 年 5 月 16 日 25 林整森第 60 号)

この要綱は、平成 25 年 5 月 16 日から施行する。

附則 （平成 26 年 4 月 1 日 25 林整森第 272 号）

この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

また、この通知による改正前の森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱（平成 25 年 5 月 16 日付け 25 林整森第 60 号農林水産事務次官依命通知）に基づいて実施した報告等については、なお従前の例によることとする。

別表（第4、第5及び第11関係）

交付金	交付事業に要する経費の内訳	交付率	軽微な変更	
			経費の配分の変更	事業内容の変更
			次に掲げる変更以外の変更	次に掲げる変更以外の変更
1 森林・山村多面的機能発揮対策交付金	<p>(1)活動組織の活動計画及び実施状況の審査・取りまとめ、事業計画書及び事業実施報告書等の作成、国への交付申請手続、活動組織への交付金の交付等に要する経費</p> <p>(2)里山林等において活動組織が行う以下の活動に要する経費</p> <p>①活動推進費</p> <p>②地域環境保全タイプ</p> <p>③②のうち、侵入竹除去・竹林整備活動</p> <p>④森林資源利用タイプ</p> <p>⑤森林空間利用タイプ</p> <p>⑥上記②～④に必要な資機材・施設の整備</p>	<p>(1)定額</p> <p>(2)定額(1/2相当)、1/2以内</p>		事業費の30%を超える減額
2 森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金	<p>実施要綱第3の2の規定に基づく以下の事業に要する経費</p> <p>(1)都道府県が行う地域協議会支援及び指導等に要する経費</p> <p>(2)市町村が活動組織に対し行う推進・指導等に要する経費の全部又は一部に充てるため、都道府県が市町村に対し交付金を交付する場合における当該交付に要する経費</p>	定額		事業費の30%を超える減額

別記様式第1号（第6関連）

平成○年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付申請書

番 号
年 月 日

農林水産大臣 殿

（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあっては内閣府沖縄総合事務局長）

〔地域協議会〕

住 所

団 体 名

代表者名 氏 名 印

又は

都道府県知事 氏 名 印

平成○年度において、下記のとおり事業を実施したいので、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第6の規定に基づき、下記のとおり申請する。

なお、事業の内容等は、別紙の事業実施計画のとおりである。

記

交付金交付申請額

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 円

森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金 円

（注）地域協議会の場合は別紙1、都道府県の場合は別紙2の事業実施計画書を添付すること。なお、事業実施計画書の内容に変更がある場合は、変更後の計画書の変更箇所を分かるように訂正した上で提出すること。

(別紙1)

平成○年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 地域協議会事業実施計画書
(実績報告書)

1. 目的

(注：都道府県の現況、本交付金を交付する意義及び推進に関する基本的考え方等について記載する。)

2. 事業内容

(1) 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 (活動組織向け交付金)

区分	交付単価(円/ha)注1	対象森林面積等(ha)注2	交付額(円)	交付対象組織数	備考
活動推進費					
地域環境保全タイプのうち里山林保全					
地域環境保全タイプのうち侵入竹除去・竹林整備					
森林資源利用タイプ					
森林空間利用タイプ					
小計					
機材及び資材の整備					
合計					

注1：空間利用活動については1回当たり単価 注2：交付最低面積は0.1ha

注3：活動推進費は、初年度のみ交付

(2) 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 (地域協議会運営費)

ア 地域協議会開催

会議開催時期	内容	開催回数	備考
月		回	

イ 交付・申請事務

活動組織数	交付額	備考
組織	千円	

ウ 確認事務

①書類の確認

活動組織数	備考
組織	

②現地確認

確認の時期	確認内容	活動組織数	備考
		組織	

エ その他推進事業の実施に必要な事項

実施内容	実施時期	実施回数等	備考
	月		

3. 経費の配分

(単位：円)

区 分	事業費	負担区分		備考
		国庫交付金	その他	
1. 活動組織向け交付金				
2. 地域協議会運営費				
合計				

注：1の備考欄に交付金の交付を完了した年月日を記載すること。

4. 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日） 年 月 日

5. 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	予算額	精算額	差引増減額	備考
1. 活動組織向け交付金				
2. 地域協議会運営費				
合計				

(2) 支出の部

区 分	予算額	精算額	差引増減額	備考
1. 活動組織向け交付金				
2. 地域協議会運営費				
(1) 協議会開催				
(2) 交付・申請事務				
(3) 確認事務				
(4) その他				
合計				

6. 交付金精算

交付金交付 決定額	精算事業費	交付率	精算交付金	既受領交付 金総額	差引交付金 未受領（返 還）額	備考
円	円		円	円	円	

<注意>

実績報告の際には、事業計画、経費の配分及び収支予算について、変更となった部分が容易に比較対照できるよう変更部分を二段書きとし、変更前を（ ）書で上段に記載するものとする。

(別紙2)

平成○年度 森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金 都道府県推進事業実施計画書 (実績報告書)

1. 事業内容

(1) 地域協議会設立支援 (実績)

設立支援時期	内容	備考
月		

(2) その他推進事業の実施に必要な事項

実施内容	実施時期	実施回数等	備考
	月		

2. 市町村に対する推進交付金の交付計画 (実績)

別添のとおり。

3. 経費の配分

(単位：円)

区 分	事業費	負担区分		備考
		国庫交付金	その他	
1. 都道府県推進事業				
2. 市町村推進事業				
合計				

注：2の備考欄に、交付金の交付を完了した年月日を記載すること。

4. 事業完了予定年月日 (又は事業完了年月日) 年 月 日

5. 収支予算 (又は精算)

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	予算額	精算額	差引増減額	備考
1. 都道府県推進事業				
2. 市町村推進事業				
合計				

(2) 支出の部

(単位：円)

区 分	予算額	精算額	差引増減額	備考
1. 都道府県推進事業				
(1) 地域協議会設立支援				
(2) その他				
2. 市町村推進事業				
合計				

6. 交付金精算

交付金交付 決定額	精算事業費	交付率	精算交付金	既受領交付 金総額	差引交付金 未受領（返 還）額	備考
円	円		円	円	円	

<注意>

実績報告の際には、事業計画、経費の配分及び収支予算について、変更となった部分が容易に比較対照できるよう変更部分を二段書とし、変更前を（ ）書で上段に記載するものとする。

別記様式第2号（第10 関連）

平成○年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金変更（中止又は廃止）承認申請書

番 号
年 月 日

農林水産大臣 殿

（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあっては内閣府沖縄総合事務局長）

〔地域協議会〕

住 所

団 体 名

代表者名 氏 名 印

又は

都道府県知事 氏 名 印

平成○年○月○日付け○第○号をもって交付金の交付決定通知のあった事業について、下記のとおり変更（中止又は廃止）したいので、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第10の規定に基づき、下記のとおり申請する。

記

（注）1 記の記載内容については、別記様式第1号の記に準ずる。また、別記様式第1号による交付金交付申請書に添付した事業実施計画を変更して提出するものとする。

この場合において、「変更（中止又は廃止）の理由」を添付するとともに、交付金の交付決定により通知された事業の内容及び経費の配分と変更後の事業の内容及び経費の配分とを容易に比較対照できるように変更配分を二段書とし、変更前を括弧書きで上段に記載すること。

2 交付の額が増額する場合には、件名の「平成○年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金変更承認申請書」を「平成○年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金変更及び追加交付申請書」とし、本文中の「下記のとおり変更（中止又は廃止）したいので、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第10の規定により、下記のとおり申請する。」を「下記のとおり変更したいので、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第10の規定により、交付金○円を追加交付されたく申請する。」とする。

別記様式第3号（第13 関連）

平成〇年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金遂行状況報告書

番 号
年 月 日

農林水産大臣 殿

（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあつては内閣府沖縄総合事務局長）

〔地域協議会〕

住 所

団 体 名

代表者名

氏 名 印

又は

都道府県知事

氏 名 印

平成〇年〇月〇日付け〇第〇号をもって交付金の交付決定通知のあつた事業について、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第13の規定により、その遂行状況を下記のとおり報告する。

記

区 分	総事業費	事業の遂行状況				備考
		〇年〇月〇日までに 完了したもの		〇年〇月〇日以降に 実施するもの		
		事業費	出来高 比率	事業費	事業完了 予定年月日	
	円	円	%	円		

- (注) 1 「区分」の欄には、別記様式第1号別紙1及び別紙2の「3 経費の配分」に記載された事項について記載すること。
- 2 「事業費」の欄には、事業の出来高を金額に換算した額を記載すること。
- 3 事業内容等に応じて、計上方法を明示すること（例：交付金の支払金額）。

平成○年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績報告書

番 号
年 月 日

農林水産大臣 殿

（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあっては内閣府沖縄総合事務局長）

〔地域協議会〕

住 所

団 体 名

代表者名 氏 名 印

又は

都道府県知事 氏 名 印

平成○年○月○日付け○第○号をもって交付金の交付決定通知のあった事業について、交付決定通知の内容に従い事業を実施したので、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第14第1項の規定により、下記のとおり報告する。

また、併せて精算額として森林・山村多面的機能発揮対策交付金○,○○○,○○○円の交付を請求する。

記

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 円

森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金 円

- (注) 1 交付申請の際に添付した事業計画書を実績報告書に変更して添付すること。
2 このほか、各事業費の根拠となる支払経費等ごとの内訳を記載した資料、帳簿の写し又は交付金調書の写しのいずれかを添付し、併せて支払確認のための資料（契約書、請求書、領収書等の写し）を添付すること。

平成○年度仕入れに係る消費税等相当額報告書

番 号
年 月 日

農林水産大臣 殿

（沖縄県又は沖縄県に事務所を置く地域協議会にあっては内閣府沖縄総合事務局長）

〔地域協議会〕

住 所

団 体 名

代表者名

氏 名 印

又は

都道府県知事

氏 名 印

平成○年○月○日付け○第○号をもって交付決定通知のあった森林・山村多面的機能発揮対策交付金について、森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付要綱第14第3項の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

- 1 適正化法第15条の交付金の額の確定額 金 円
（平成○年○月○日○第○号による額の確定通知額）
- 2 交付金の確定時に減額した仕入れに係る消費税等相当額 金 円
- 3 消費税及び地方消費税の申告により確定した仕入れに係る消費税等相当額 金 円
- 4 交付金返還相当額（3－2） 金 円

（注）記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。

なお、交付事業者が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

・消費税確定申告書の写し（税務署の収受印等のあるもの）

・付表2「課税売上割合・控除対象仕入税額等の計算書」の写し

・3の金額の積算の内訳（人件費に通勤手当を含む場合は、その内訳を確認できる資料も併せて提出すること。）

・交付事業者が消費税法第60条第4項に定める法人等である場合、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料

- 5 当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかにならない場合、その状況

を記載

[]

(注) 消費税及び地方消費税の確定申告が完了していない場合にあつては、申告予定時期も記載すること。

6 当該交付金に係る仕入れに係る消費税等相当額がない場合、その状況を記載

[]

(注) 記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。

なお、交付事業者が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

- ・免税事業者の場合は、補助事業実施年度の前々年度に係る法人税（個人事業者の場合は所得税）確定申告書の写し（税務署の収受印等のあるもの）及び損益計算書等、売上高を確認できる資料
- ・簡易課税制度の適用を受ける事業者の場合は、補助事業実施年度における消費税確定申告書（簡易課税用）の写し（税務署の収受印等のあるもの）
- ・交付事業者が消費税法第 60 条第 4 項に定める法人等である場合、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料

2/20/2013

別記様式第6号（第19関係）

財 産 管 理 台 帳

事業実施主体名 _____

事業実施年度		平成 年度	農林水産省所管補助金等名			経 費 の 配 分		処分制限期間		処分の状況		備 考	
事業種類	事業種目 (事業細目)	名 称	設置場所	数量	取 得 年月日	総事業費	負 担 区 分		耐 用 年 数	処分制限 年月日	承 認 年月日		処分の 内 容
							国庫補助金	自己負担金					
	計	/	/	/	/				/	/	/	/	
	計	/	/	/	/				/	/	/	/	
	合 計	/	/	/	/				/	/	/	/	

- 注：1 処分制限年月日には、処分制限の終期を記入すること。
 2 処分の内容欄には、譲渡、交換、貸付、担保提供等別に記入すること。
 3 備考欄には、譲渡先、交換先、貸付先、抵当権等の設定権等の設定権者の名称又は補助金返還額を記入すること。
 4 この書式により難しい場合には、処分制限期間欄及び処分の状況欄を含む他の書式をもって財産管理台帳に代えることができる。

別記様式第7号（第20関係）

平成 年度

農林水産省所管

森林・山村多面的機能発揮対策交付金調書

国			地方公共団体名								備考
			歳入			歳出					
交付事業名	交付決定の額	交付率	科目	予算現額	収入済額	科目	予算現額	うち国庫 交付金相 当額	支出済額	うち国庫 交付金相 当額	
	円			円	円		円	円	円	円	

記載要領

- 1 「交付金事業名」欄には、交付金事業の名称のほか、当該交付金事業に要する経費の配分を記載すること。
- 2 「科目」欄には、歳入にあつては、款、項、目及び節を、歳出にあつては款、項、目をそれぞれ記載すること。
- 3 「予算現額」欄には、歳入にあつては当初予算額、追加更正予算額等に区分してそれぞれの額を、歳出にあつては当初予算額、追加更正額、予備費支出額、流用増減額等に区分してそれぞれの額を記載すること。
- 4 「備考」欄には、参考となるべき事項を適宜記載すること。